

# 組織目標評価報告書（平成29年度）

部局名： **中性子医療研究センター**

部局長名： **竹内 大二**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	
<b>①-1 目標</b>	<b>①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b>
	「中性子医療の国際連携大学院特別コースの設置」との概算要求計画を踏まえ、大学院コースの実現方法について、関連部局と連絡を取りながら検討を始めている。
<b>①-2 全学の組織目標との関連</b>	<b>①-2 大学全体への貢献</b>
<b>①-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	<b>①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b>
<b>②研究領域</b>	
<b>②-1 目標</b>	<b>②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>世界標準のガイドラインに対応する新規ホウ素薬剤の開発に向けて研究を進展させる。</li> <li>クロスアポイントメント制度等を活用して国内外の研究者を受け入れるとともに、国際原子力機関(IAEA)の職員を教員として採用することによりセンターの運営体制を確立する。</li> <li>外部資金を積極的に獲得し、研究をより加速させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>H29年9月IAEAにおいてホウ素中性子捕捉療法(BNCT)のホウ素薬剤に関するConsultancy Meetingを協同で開催し、また、名古屋大学と共同で線量解析を進め、研究を推進した。</li> <li>IAEAから一旦退職した職員(課長職クラス)を招聘し、当該目標はほぼ達成した。</li> <li>名古屋大学と協力して日本医療研究開発機構(AMED)の予算を獲得し、計画は達成している。</li> </ul>
<b>②-2 全学の組織目標との関連</b>	<b>②-2 大学全体への貢献</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>研究大学「岡山大学」の構築 基礎研究から社会実装まで連続性のある研究大学「岡山大学」の構築、プロジェクト研究の拠点化</li> <li>ダイバーシティの推進、組織の活性化 女性教員の増加促進、クロスアポイントメント制度を活用した人材の確保</li> <li>外部研究資金等の獲得の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当センターではBNCTの基礎研究のみならず社会実装まで視野に入れた活動を展開しており、名古屋大学とH29年9月に協定を結んだことを初めとして、放射線医学総合研究所(放医研)、IAEA、ドイツDuisburg-Essen大学、イタリアPavia大学等、内外の機関と協働してプロジェクトを推進している。</li> <li>女性教職員を積極的に採用して、活用している。</li> <li>外国人教員を特別契約職員として採用した。(②-3参照)</li> <li>大規模、小規模を問わず、外部資金に積極的に応募している。</li> </ul>
<b>②-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	<b>②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>研究論文の発表状況</li> <li>クロスアポイントメント制度による研究者受入状況</li> <li>女性教員の採用状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究論文：極めてグレードの高い論文雑誌へ、現在、2編の投稿を準備している。</li> <li>クロスアポイントで熊本大学から教授1名を採用。IAEAは制度的にクロスアポイントが可能でなかったため、一旦退職した課長クラス人材を採用。Duisburg-Essen大学からも一旦退職した教授を採用。</li> <li>女性教職員として、専任の准教授1名、研究員1名を採用。</li> </ul>
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	
<b>③-1 目標</b>	<b>③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>放射線治療の世界基準を定める国際原子力機関(IAEA)やドイツ・Duisburg-Essen大学、イタリア・Pavia大学等との連携を深め、中性子を利用したがん治療におけるガイドラインの策定を目指す。</li> <li>将来の「中性子医療関連研究拠点」の形成に向けて、鏡野町や津山中央病院との連携を深め、具体的な調整を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>H29年9月IAEAにおいてホウ素中性子捕捉療法(BNCT)のホウ素薬剤に関するConsultancy Meetingを協同で開催し、当該年度における目標は達成した。</li> <li>主要な関係者と適宜、情報交換をしている。</li> <li>社会貢献は、BNCTの臨床適用が最大の目標であり、現在、悪性脳腫瘍や頭頸部がんを対象にした臨床研究を開始するべく、準備を進めている。</li> </ul>
<b>③-2 全学の組織目標との関連</b>	<b>③-2 大学全体への貢献</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>研究大学「岡山大学」の構築 基礎研究から社会実装まで連続性のある研究大学「岡山大学」の構築、プロジェクト研究の拠点化</li> <li>産学官連携活動の推進 全国レベル・地域レベル双方の産学官連携活動を展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当センターではBNCTの基礎研究のみならず社会実装まで視野に入れた活動を展開している。また、BNCTの1拠点としての役割を果たしつつある。</li> <li>BNCTを社会実装するためには産学官連携が必須であり、名古屋大学や企業と連携した全国展開、鏡野町と連携した地域展開などを総合的に視野に入れている。</li> </ul>
<b>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	<b>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ガイドライン策定に向けた進捗状況</li> <li>IAEAにおけるConsultancy Meeting(専門家会議)の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>H29年9月IAEAにおいてホウ素中性子捕捉療法(BNCT)のホウ素薬剤に関するConsultancy Meetingを協同で開催し、当該年度における目標は達成した。</li> </ul>
<b>⑤管理運営領域</b>	
<b>⑤-1 目標</b>	<b>⑤-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>センター長及び副センター長を中心にセンター運営委員会を効果的に機能させるとともに、研究の進捗状況をレビューできる体制を構築する。</li> <li>現有施設・設備を最大限有効活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>センターの業務に関して評価を行い、今後のセンター運営の方向性等について提言する組織として、中性子医療研究センター評価委員会を設置することとし、同委員会要項を制定した。</li> <li>研究に現有設備を最大限に利用することは、既に行われており、また、名古屋大学や放医研の施設を利用した研究も推進している。</li> </ul>
<b>⑤-2 全学の組織目標との関連</b>	<b>⑤-2 大学全体への貢献</b>
ガバナンス機能・運営体制の強化	中性子医療研究センターは5部門体制で発足しており、各部門の運営体制の整備を進めているところである。
<b>⑤-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	<b>⑤-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b>
研究進捗レビュー状況	各部門が連携している研究の進捗状況のレビューを逐次進めているところである。評価委員会による評価は、平成30年度から実施予定である。
<b>【総括記述欄】</b>	
H29年4月に中性子医療研究センターが発足して1年が経過した。当初予定した初年度の計画は、達成しつつあると考えている。ただし、ホウ素中性子捕捉療法BNCTを社会実装するためには、資金面を初めとして多くの困難が予想される。センター全員の今後における一層の尽力が求められていることを銘記したい。	